コンバージェンスジャパンが
シャツ「デッコーロウォモ」

「旅」連想させる販促

ECを中心に販売

コンバージェンスジャパン（東京、金杉恭平代表、電話03・6276・5390）は今春夏物から、紡績から縫製まで国産のシャツブランド「デッコーロウォモ」の販売を始めた。

「デッコーロ」はイタリア語で「離陸」の意味で、〝多忙に働く人々の旅立ちを支える〟がコンセプト。販売対象の中心は40～60代の〝余裕のある男性〟だ。

余裕のある男性向け

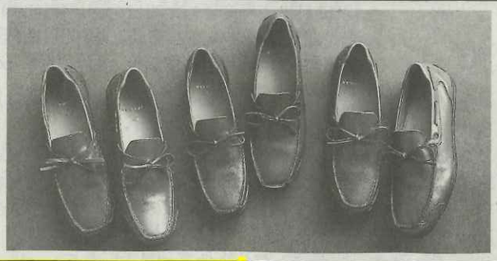
フライトやクルーズなど「旅」を連想させるプロモーションを活用して、大人の男性のライフスタイルに沿ったシャツとして打ち出す。自社でのECなどウェブでの販売を中心にしながら、今後は地方百貨店卸などの展開も模索する。

同社は14年創業のメンズシャツ専業メーカー。商品開発から品質管理までこだわりを持つ。商品企画は機能性を追求したスポーティーな素材を使い、モダンなシャツに仕上げた。モダル・コットン・ポリエステルを混紡したオリジナル素材「コンコルド」は吸水速乾性、防しわ性、抗菌防臭性などの機能を兼ね備える。

型数はバイロットシャツなど定番4型、カラーは白、ネイビー、スカイブルー。価格は長袖シャツが1万8000円、半袖シャツ1万6000円。

自動車好きを深掘り

マルミツ「ネグローニ」一格上の商品も



ECが好調な自社工場生産のドライビングシューズ

マルミツ（東京、電話03・3801・4745）はファクトリーブランド「ネグローニ」で、ドライビングシューズに特化した商品開発により自動車好きのコアなファンを増やす。自社ECを軸にリピーターも多く、売り上げを伸ばしている。新たに一格上の3万円台後半～4万円台半ばの品揃えを充実し、「とことん自動車カルチャーを掘り下げる」（宮部修平ブランドディレクター）としている。今後は海外戦略も加速させる計画だ。

ネグローニはドライビングをコンセプトにしたレザーシューズで00年に立ち上げた。東京・南千住にある自社工場の強みを生かし、カスタムオーダー対応やアフターケアサービスも可能だ。問屋経由での百貨店向け卸販売や自社ECサイトで販売のほか、自動車雑誌と協業、自動車メーカーとの商品開発の取り組みなども多い。現在、フェイスブックのフォロワーは1万1000人を超える。既存の販売先以外の百貨店や専門店でも期間限定ショップなどを開いたり、自社ファクトリーイベントなどによる情報発信とともに、ファンとのコミュニケーションを密にしている。

従来のドライビングスニーカーに上質なラインを加え、革からオリジナルで作り込んだ。イタリア・フィレンツェのベジタブルタンニンなめしのレザーにオイルの配合を増やすことで、厚みがありつつ柔らかい風合いにした。これまではスポーティーなイメージを表現するため、発色の良さを追求してきたが、今回は手作業で仕上げ、味わい深い色あいを実現した。ライニングもレザーに変えた。クッション性の高さやソールを巻き上げたかかと部分など機能的な作りはそのまま。新商品は3万9000～4万6000円。

海外戦略では、英国で自動車関連の大規模なイベントに参加したり、シンガポールやカナダでのリサーチなどの取り組みも着実に進んでいる。来年には、海外でイベント販売なども検討している。3～5年でECをベースとした海外販売の基盤を整備する計画だ。

行列が出来るほど盛況だった

来る人もいるなど、客が思い思いに楽しめるイベントに育っている。

美少女オーディション開催

審査員はAI

ドレス専門ECのデイジー

ドレス専門EC「デイジーストア」を運営するデイジー（東京、電話03・5422・9900）は、大手芸能プロダクションのレプロエンタテインメントとの協業で、AI（人工知能）が審査員の美少女オーディションを実施する。受賞者は、同ECで販売するカラーコンタクトのモデルに採用するほか、美容雑誌『ヴォーチェ』での掲載や、レプロエンタテインメント所属のチャンスが与えられる。

オーディション期間は6月26日～7月23日で、12～22歳の女性が対象。審査は顔だけで、顔写真を応募ページにアップして申し込む。審査するAI「ロカ・ソリューション」は、東京大学とウェブ監視のイー・ガーディアンが産学連携で開発した人工知能型画像認識システム。レプロエンタテインメントの所属タレントやタレント名鑑の女性芸能人の顔サンプル800枚を学習し、女性の特徴や共通性を分析し、客観的に点数をつける。

「Cチャンネル」などのウェブメディア3媒体で宣伝し、初日は250人の応募があった。

伊勢丹新宿本店で7月に期間限定店

「メゾン・ド・ニジイロ」

イラストレーター、いよりあきこさん（電話050・3697・8118）が手掛けるアクセサリーブランド「メゾン・ド・ニジイロ」が7月5日から11日まで、伊勢丹新宿本店で期間限定店を開く。

〝恋愛運と金運を上げる〟とする、いよりさんのイラストも展示販売し、アクセサリーと連動する世界観を見せる。

メゾン・ド・ニジイロは、旅先で買い集めてきたビンテージパーツなどに、いよりさんのイラストを閉じ込めた樹脂製のペンダントトップを合わせたネックレスが代表アイテム。

「メゾン・ド・ニジイロ」のアクセサリーとイラスト

今回は、いよりさんがハンドメイドした小鳥やスミレのクレイ製チャームも加わって、ファンタジックなイラストのイメージとよりつながったコレクションとなっている。なお、同店での期間限定店は9月にも開く予定だ。

毎日がおしゃれ記念日

●7月6～11日

服飾評論家　出石尚三

7月6日　モーパッサンがヒントにした宝石

1893年7月6日は、モーパッサンが世を去った日です。ギ・ド・モーパッサンはフランスの作家。42歳だった計算になります。実際の活躍期間は、ざっと10年。わずか10年で、あれほど多くの名作を生み出したわけです。

師匠は小説家のギュスターヴ・フローベール。はじめてモーパッサンがフローベールを訪ねると、「庭に出て、石ころをふたつ拾って来なさい」と言う。モーパッサンが石ころをふたつ持って、フローベールの前に。すると師匠は言った。「そのふたつの石ころを書き分けてごらん」

モーパッサンは『真珠飾り』という短編を書いています。宝石にも興味があったようです。ごくふつうの家庭の奥さんが突然に亡くなる。奥さんが集めていたまがい物の宝石が、すべて本物だったとか。モーパッサンが宝石をヒントに傑作を作ったのは、間違いありません。

7月7日　マーラーと白麻服

1860年7月7日は、マーラーの生まれた日です。グスタフ・マーラーはこの日、チェコ・ボヘミアの小さな町、カリシュトに生を受けています。父のベルンハルトは酒の蒸留所を開いていた。多くの音楽家の例にもれず、マーラーもまた天才であったようです。5歳の時、姿が見えなくなった。いつの間にか屋根裏に上がりピアノを弾いていたという。

大きくなってからは、黒ビールが好きだったが、あまり酒に強いほうではなかった。中でも「シュパーテンブロイ」という銘柄が大好きだったそうです。

マーラーには不思議な癖があって。レストランでワインが出てくると、そのラベルをことごくはがした。ある時、友人がその癖に気づいて、あらかじめすべての瓶からラベルをはがしておいた。マーラーはとてもがっかりしたそうです。

マーラーの「交響曲第五番」が効果的に使われた映画に、「ベニスに死す」があります。この映画の主人公、アッシェンバッハが美しく着こなしてくれるのが白麻服なのです。

7月8日　名女優とTシャツ

1967年7月8日は、ヴィヴィアン・リーが世を去った日です。1913年11月15日の生まれですから、53年の人生だったことになります。

誰もが思い浮かべるのは、「風と共に去りぬ」のスカーレット・オハラ役でしょう。が、その一方で、誰にとっても忘れられないのが、「欲望という名の電車」のブランチ・デュボアではないでしょうか。もちろん、テネシー・ウィリアムズの原作。エリア・カザン監督の映画。後世に残る名画のひとつです。ブランチ・デュボア。架空の名前としては、比較的よく知られているほうでしょう。

というよりも、女優なら一度は演じてみたい。ブランチ役が見事に演じられたなら、女優も免許皆伝です。それほどにブランチ役は、奥の深い心理描写を求められる演技だといえるでしょう。

やはりヴィリアムズはただ者ではありません。ブランチの相手役が、当時まったくの新人だったマーロン・ブランドなのです。スタンリー・コワルスキー役。

「欲望という名の電車」は、1950年代以降のアメリカにTシャツをはやらせた映画でもあるのです。

7月9日　ミシン発明史の一説

1846年7月9日は、ミシンの発明の日です。リアス・ハウが、ミシンの発明者だと言われている物だと言われている。

1829年、ウォルター・ハント説があります。

ス・ハウは、ミシンの発明者ながらも、「夢」を実現することはそれほど簡単ではないと認められていたエリアス・ハウに寄与したのは、

7月10日　ハットバンドを愛した野球解説者

1880年7月10日は、生まれた日です。プロ野球解説者として、当時はNHKのアナウンサーのコンビでものです。

NHKのアナウンサーの撮、野球解説者として、に出るようになった年。志村正一がアナウンサーカに立ち、野球解説者として招いて解説者としてがつくと、

野球解説者としてもあって、

持っていたハットバンドが数度を作ったのは、

ネクタイ。

7月11日　ユル・ブリンナーとタイ・シルク

1920年7月11日は、ユルナーの生まれた日です。ユルはもちろん、ウラジミール日、ウラジミールその時のユル・ブリンイッチ・ブリンナー母はロシアの貴族。

ユル・ブリンナーは「王様と私」で主演賞を受賞し、自身もミュージカルされたお馴染み・ランドの1944年王政のタイ教師に行くことは、実際

映画「王様と私」アイリーン・ダデミー賞を受賞ふんだんに使

タイはシルクを織ソンです。

略譜報局身、OSS略譜報局

といった話と同じく